

DX化支援研修サービスのご提案

DX化支援社内認定シリーズ
-ChatGPT業務活用コース-

SE・Seal Engineering

会社名	株式会社シールエンジニアリング
所在地	〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-9 住友新虎ノ門ビル
設立	2016年8月
資本金	150百万円
事業内容	・蓄電池の設計、施工 ・蓄電池の販売、運営・保守（O & M） ・再生可能エネルギー関連事業 ・移動体通信工事事業 ・DX化支援研修サービス
URL	https://dx.sealengineering.co.jp/

DXとはデジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）※の略で、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革することを指します。

※英語圏では接頭辞の「Trans」を「X」と書く慣習があるため、「DX」と表記されます。

DX化支援認定シリーズは、企業のDX推進に必要な基礎知識とAIリテラシーを、eラーニングで効率的に習得し、テストで理解度を可視化できる法人向け学習シリーズです。場所を選ばず学べる手軽さと、体系的に学べる実用性を両立し、リテラシーチェックテスト機能によって、受講者ごとの理解度確認や社内の学習定着状況の把握がしやすい設計となっています。「学ぶだけで終わらない」ことを重視し、DX・AI活用の土台づくりと、組織全体の基礎レベルの標準化を支援します。

難しい操作は一切ありません。

小さな成功体験を積み重ねることで、現場の抵抗感を乗り越え、組織文化としてAI活用を根付かせる方法を学びます。

単に**生成AIを学ぶ**だけで終わらせず、**自分の仕事にも活かせる！**という実感や本講義で湧いたアイデアが、貴社のDX加速の一助となれば幸いです。



DX化事業における生成AIの活用は業務効率化に大きく貢献しますが、ネットリテラシーが欠如していると情報漏洩やコンプライアンス違反といったリスクが発生します。生成AIの仕組みを正しく理解し、入力内容を慎重に扱うことで、こうした問題を未然に防ぐことが可能です。また、AIが生成する情報には誤りが含まれる場合があるため、内容を批判的に検証する力も必要です。ネットリテラシーを高めることは、生成AIを安全かつ効果的に活用するための必須条件です。

～考えられるリスクの例～



情報漏洩によるトラブル

生成AIに取引先の契約内容や顧客リストなどの機密情報を入力した場合、それが外部サーバーに保存される可能性があります。これにより、機密情報が第三者に漏洩し、企業の信頼が損なわれる恐れがあります。



法的トラブルの発生

AIが生成したコンテンツをそのまま使用した結果、著作権侵害や虚偽情報の発信による法的な問題が発生することがあります。たとえば、生成された資料に誤情報が含まれていた場合、それを基に取引先と契約を結んでしまうと、後々トラブルの原因となります。



社員や組織の信頼失墜

社内規定に違反してAIを使用したことが発覚すると、当該社員だけでなく、組織全体の信頼が揺らぐ可能性があります。特にDX化を推進する部門がこうした問題を起こすと、プロジェクト全体の進行に悪影響を与えます。

以上のように、生成AIを活用する上でネットリテラシーを高めることは、リスクを回避しながらDX化の効果を最大化するために重要なポイントです。社員に対して適切な教育を実施し、生成AIの使用に関するガイドラインを明確化することで、企業全体として安全かつ効果的にAIを活用する基盤を整えることができます。

このシリーズで実現できること

DX・AIの基礎を学び、理解度まで確認できる法人向け教育シリーズ。

90日間のEラーニングとリテラシーチェックテスト機能で、社内のDX推進に必要な共通基盤づくりを支援します。

「学んだつもり」を防ぎ、社内のDX推進に必要な基礎づくりを支援します。



体感的に学べる

受講者がDX推進やAI活用に必要な基礎知識を
eラーニングで無理なく学習できます。
断片的な理解ではなく、実務につながる土台を
整理して身につけられるのが特長です。



理解度を可視化できる

リテラシーチェックテスト機能により、
学習内容の定着度を確認できます。
「見たかどうか」だけでなく、「どこまで理解
できているか」を把握しやすくなります。



組織の基礎レベルを標準化できる

学習内容とテストを通じて、社員ごとの知識の
ばらつきを減らし、組織としての基礎レベルを
揃えやすくなります。DX推進を全社で
進めるための共通基盤づくりに役立ちます。

こんなお悩みをお抱えの法人様に最適です！



DX/AI教育を
全社的に進めたい企業



一部部署だけでなく、全社員に
向けてDXやAIの基礎教育を
広げたい企業に適しています。



受講後の理解度まで
確認したい企業



学習機会の提供だけでなく、
テストによって理解度や定着度まで
把握したい企業に最適です。



まずは導入しやすい形で
始めたい企業



集合研修よりも負担を抑えつつ、
eラーニングで効率よく
教育を進めたい企業に向いています。

1 ストーリー形式でわかりやすい

登場人物や現場の流れに沿って学べるため、知識を「自分ごと」として捉えやすく、内容が自然に頭に入ります。

2 学習と確認をワンセットで提供

eラーニングで学ぶだけでなく、リテラシーチェックテスト機能を利用することで理解度まで確認できます。
「学んだつもり」を防ぎ、学習成果を見える化できます。

3 全社展開しやすい内容設計

専門知識がない方でも理解しやすい構成のため、部門や職種を問わず導入しやすいのが特長です。
全社的なDX・AI教育の基盤づくりに適しています。

4 現場活用をイメージしやすい

実際の業務に近い場面設定で学べるため、知識の習得にとどまらず、「どう活かすか」まで具体的に考えやすくなります。

5 導入しやすいeラーニング形式

集合研修に比べて導入しやすく、受講者が自分のペースで学習できるため、無理なく教育を進められます。

従来の研修課題

内容が硬すぎる

頭に入ってこない

活用シーンを想像できない

DX化支援社内認定シリーズ

受講前テスト

興味喚起

疑似体験

実体験

発見・想像

受講後テスト

学ぶだけで終わらせない。

eラーニングとリテラシーチェックテスト機能で、理解度の確認と学習内容の定着を支援する構成です。

AIリテラシーチェックテスト機能

学習成果を見える化する、AIリテラシーチェックテスト機能付き。
AIの基本理解から活用時の注意点まで、受講者の理解度を確認できるテスト機能です。
「学んだつもり」を防ぎ、社内に必要なAIリテラシーの定着を支援します。
※テストはカリキュラムには含まれておりません。

研修で学んだAIの理解度を見える化し、教育効果をしっかり確認

Q1 未解答
マークダウンとは主にどのような目的で使われる記法ですか。

☐ A. コンピュータの処理速度を上げる
☐ B. 文章の構造を分かりやすく表現する
☐ C. AIの学習データを増やす
☐ D. ネットワーク通信を高速化する

Q2 未解答
次のうち、マークダウンの見出しを書く正しい方法はどれですか。

☐ A. # 見出し
☐ B. @ 見出し
☐ C. \$ 見出し
☐ D. & 見出し

Q3 未解答
マークダウンで箇条書きを作るときによく使われる記号はどれですか。

☐ A. -
☐ B. #
☐ C. %
☐ D. &

Q4 未解答
マークダウンの引用を表す記号はどれですか。



LMS機能付きプラットフォームについて

1. わかりやすいデザイン

お客様からも「直感的でわかりやすい」とご評価いただいております。

2. 結果の管理

受講者ごとの学習進捗はもちろん、視聴日時の記録をCSVデータにて出力可能です。

3. 飛ばし見防止機能付き

受講者にしっかり学んでいただくため初回のみ飛ばし見防止機能が作動します。

4. 修了証発行機能付き

受講を完了した証として、修了証明書が発行されます。



修了証明書
イメージ

ChatGPT

業務活用コース



メモリ機能（長期的・自動的な記憶）

メモリバンク（記憶データベース）

ユーザーは犬が好き
犬やコーギーについて興味あり
やさしく、親しみやすく

「犬にはこの切り口が合いそう」という調整

↓

AIの返答（例）

犬について詳しいんですね！
柴犬やコーギーについて
もっと教えてほしいですか？

チャットを続けていくうちに
保存されるもの

- ✓ ユーザーの好み
- ✓ 特定の呼び方
- ✓ プロジェクトの前提条件

適用範囲
現在のチャットだけでなく、新しい
チャットにも引き継がれる

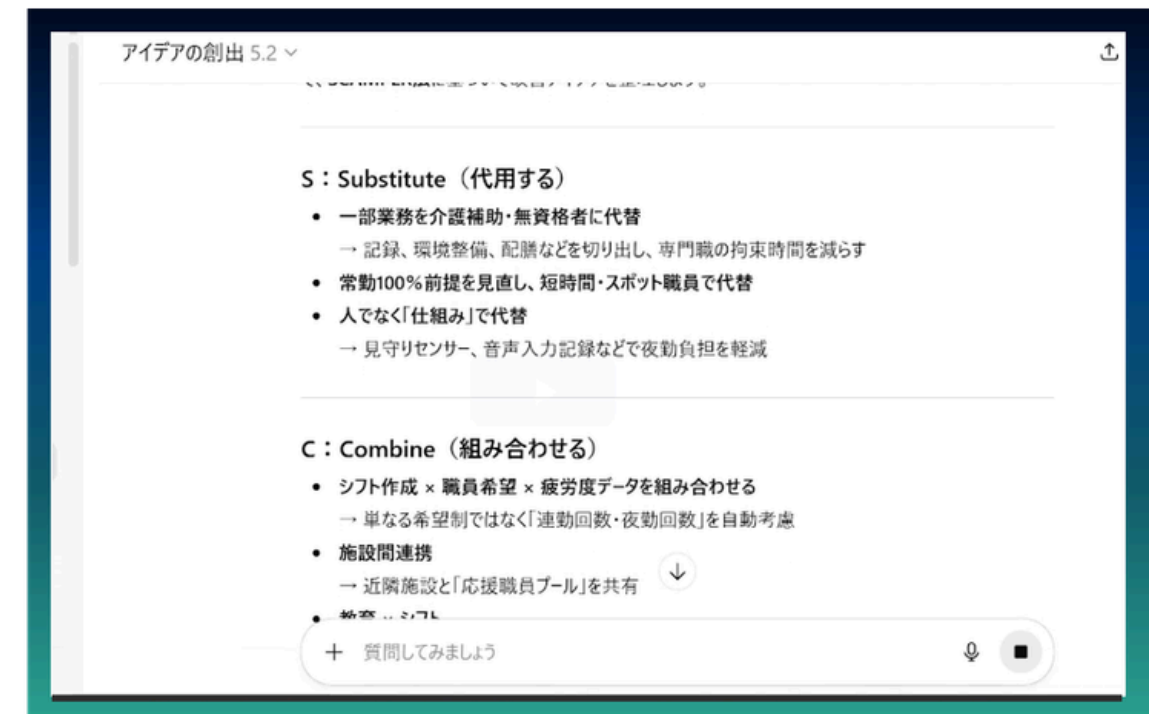
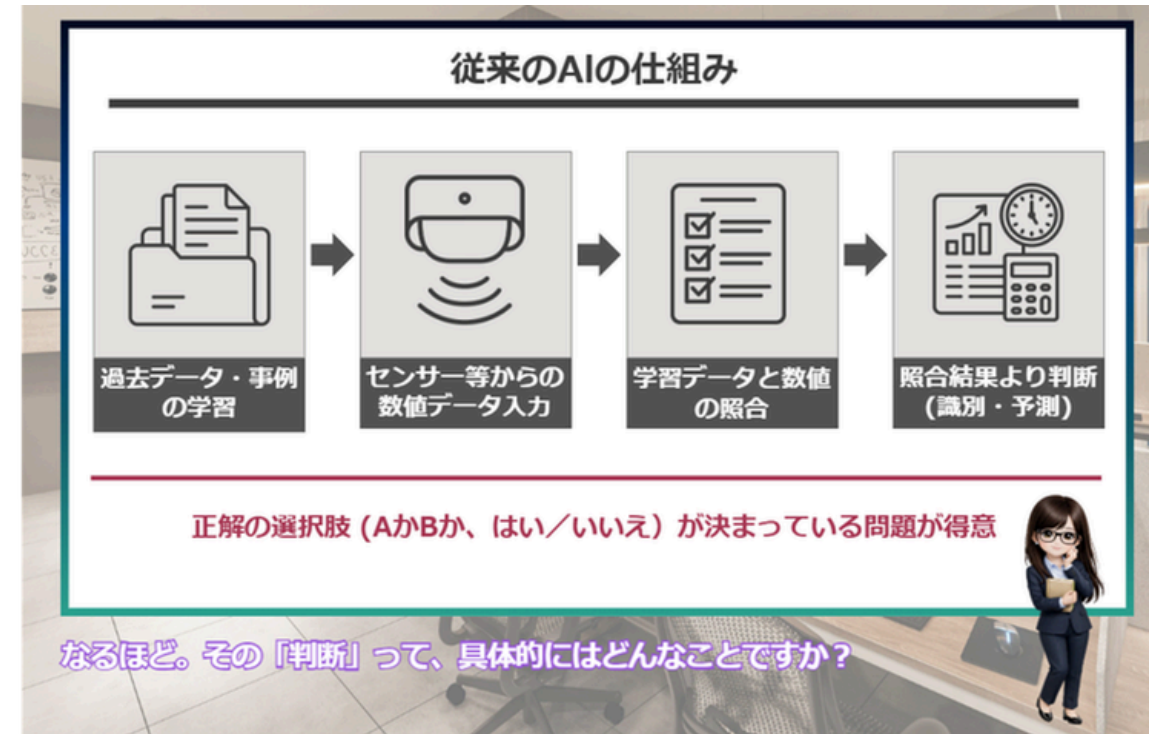
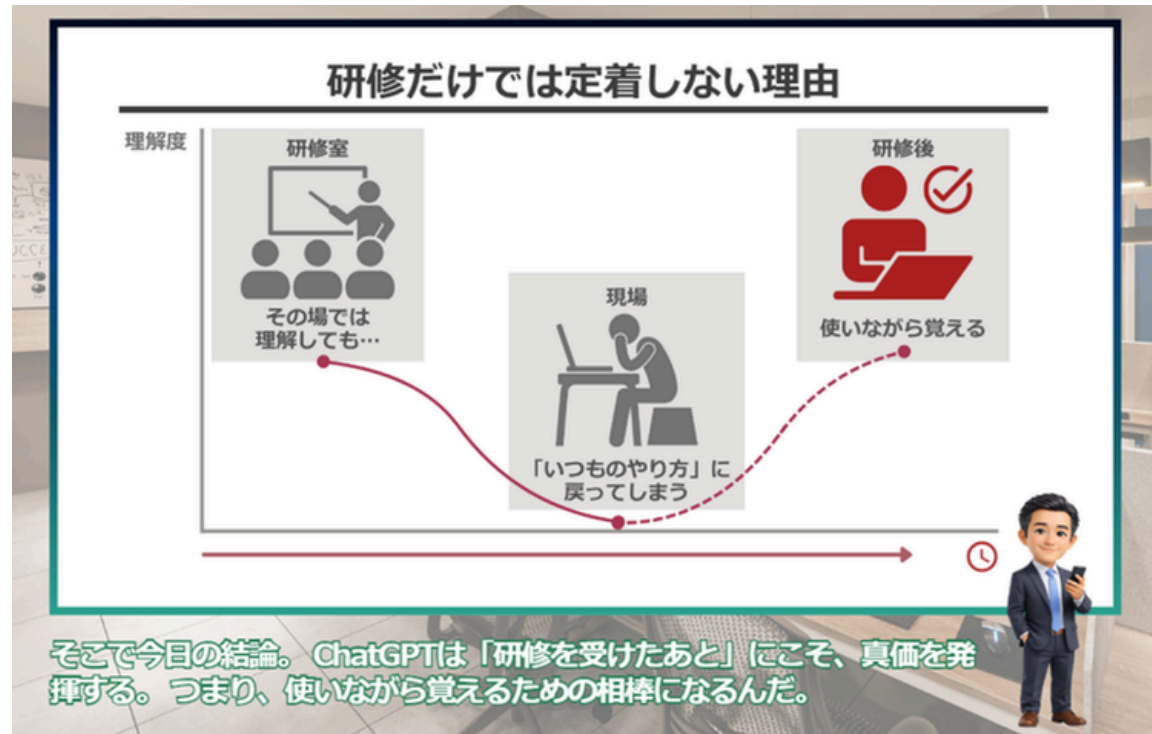
「学習済みメモリ」として残ることがあり、少しずつメモリが増えてい
っている。ちょっと見てみようか。

1章

生成AIは、いろいろな種類や機能を知ること大切ですが、一つの
ツールを深く使い込む中で、これまで見えにくかった価値に気づく
場面も増えていきます。
この教材では、数ある生成AIの中からChatGPTを入り口として、
仕事の中でどのように使えば効果が出るのかを、具体的な場面を想定
しながら順を追って説明していきます。

実はね、前職では、工場で生産管理の仕事を
していたんだ。

AIの力で課題を解決するストーリー



定着・習慣化まで見据えた研修設計

学んで終わりではなく、
継続的に業務で活かせる使い方まで
身につけられます。

安全に活用するための基礎力を習得

生成AIの注意点に加え、セキュリティや
著作権など業務利用に必要な基礎も
習得できます。

現場ですぐに使える実践型学習

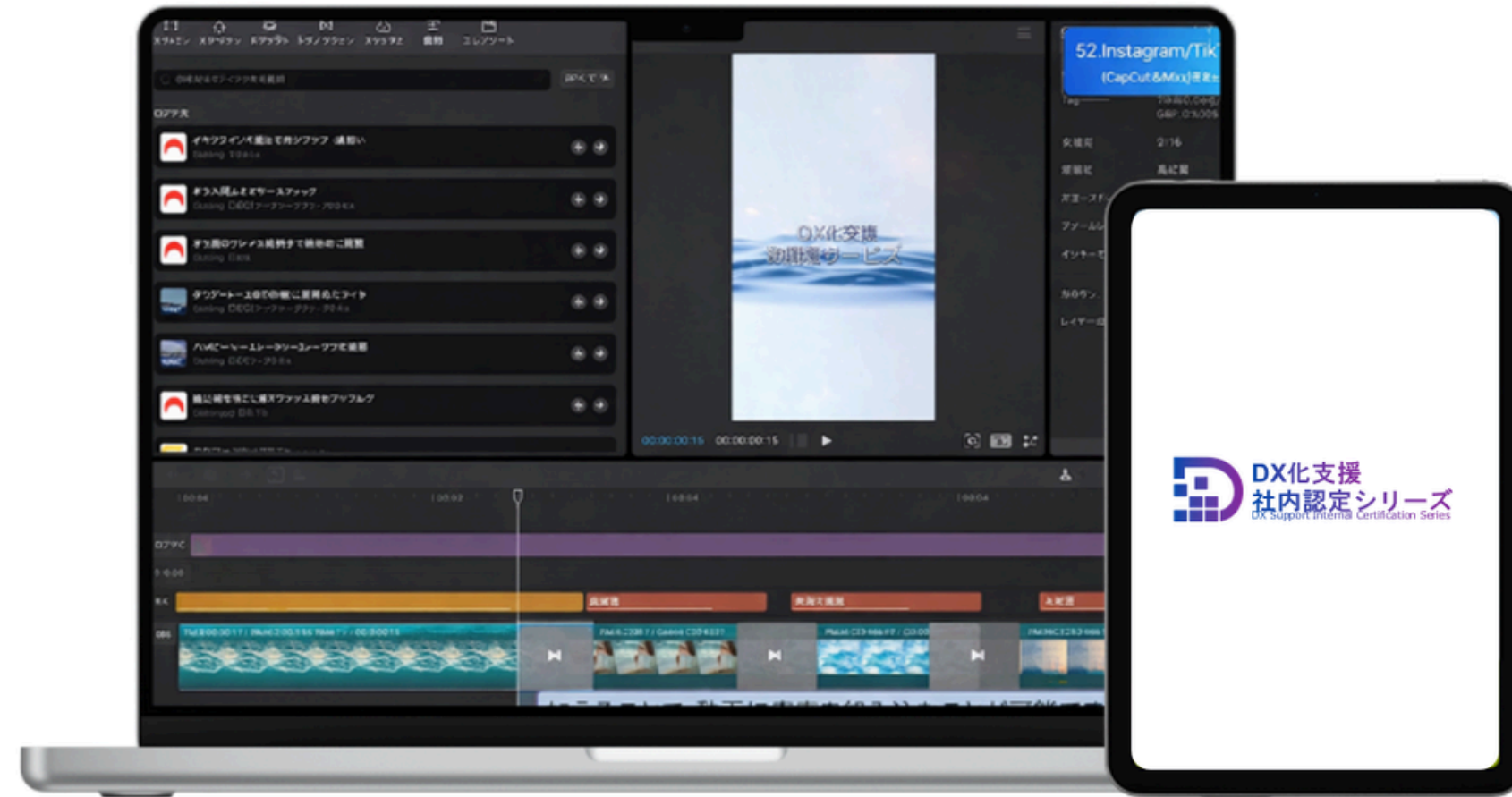
情報整理、資料作成、PDF活用など、
実際の業務に沿って学べる構成です。

各章で学べるAI



■全14章構成 ■標準学習時間：12時間 ■全動画3か月間見放題

【内容】 生成AIが広がる背景や、業務で成果を出す使い方を学びます。 あわせて、LLMの仕組みや検索との違いを理解します。 【身につくこと】 生成AIの特性を踏まえ、適切に活用する基本的な判断力が身につきます。	【内容】 PDFから必要な情報を引き出す使い方を学びます。 あわせて、PDFを質問できる情報源として使う考え方を理解します。 【身につくこと】 目的に応じてPDFの内容を整理・抽出する力が身につきます。	【内容】 ChatGPTに意図を伝えるためのマークダウンの基本を学びます。 あわせて、情報を構造化する大切さを理解します。 【身につくこと】 目的や前提、出力形式を整理して伝える力が身につきます。
【内容】 ChatGPTにもっともらしい誤りが生まれる理由を学びます。 あわせて、ハルシネーションと事実確認の大切さを理解します。 【身につくこと】 ChatGPTの出力を下書きとして扱い、確認しながら使う基本姿勢が身につきます。	【内容】 資料や文章のたたき台を作る進め方を学びます。 あわせて、対話しながら形にしていける使い方を理解します。 【身につくこと】 ChatGPTをたたき台作成や推敲に活用する基本が身につきます。	【内容】 生成AIを業務で使ううえで必要なセキュリティと著作権の基本を学びます。 あわせて、安全に使うための考え方を理解します。 【身につくこと】 情報の扱いや利用条件を踏まえて適切に判断する力が身につきます。
【内容】 ChatGPTが情報を扱う仕組みを学びます。 あわせて、パーソナライズ、メモリ、会話履歴の違いを理解します。 【身につくこと】 設定や記録の仕組みを踏まえ、安定して活用する基本が身につきます。	【内容】 音声入力を使って考えを整理する方法を学びます。 あわせて、現場で無理なく使うための考え方を理解します。 【身につくこと】 音声入力を思考整理や下書き作成に活かす力が身につきます。	【内容】 これまで学んだ内容を振り返り、復習します。 あわせて、継続して活用するための考え方を理解します。 【身につくこと】 自分の業務でどこから使うかを整理し、実践につなげる力が身につきます。
【内容】 ChatGPTの画面の見方と基本操作を学びます。 あわせて、履歴整理やGPTsの基本も理解します。 【身につくこと】 画面構成と基本操作を理解し、迷わず使い始める力が身につきます。	【内容】 クレーム対応の基本の流れを学びます。 あわせて、GPTsを使った実践的な練習方法を理解します。 【身につくこと】 クレーム対応を型に沿って進める実践的な力が身につきます。	【内容】 ChatGPTの出力を見直し、自分の意図に合わせて整える進め方を学びます。 あわせて、自分の考えを言葉にして反映する大切さを理解します。 【身につくこと】 AIの出力を自分の成果物として仕上げる力が身につきます。
【内容】 写真や画像を使った基本的な活用方法を学びます。 あわせて、画像への質問や編集の基本を理解します。 【身につくこと】 画像を使って状況を整理・共有する基本的な力が身につきます。	【内容】 理解度チェック用のクイズを作る方法を学びます。 あわせて、復習につなげる運用の考え方を理解します。 【身につくこと】 学びを繰り返し確認できる仕組みを作る力が身につきます。	



1人 / 182,000円（税別）

AIの活用に特化した研修をパッケージ化しLMS機能（学習管理システム）を有したeラーニング動画形式です。

動画視聴後は日常業務にもAIを取り入れることで、業務効率化をバックアップします。

助成金について

厚生労働省の「人材開発支援助成金事業展開等リスクリング支援コース」に申請が可能です。

研修費用を最大15万円削減！
(中小企業の場合)

※助成率 → 中小企業：最大75% 大企業：最大60%
助成限度額 → 中小企業：15万円 大企業：10万円

